

# 広尾学園中学校高等学校 (前 順心女子学園)

## 帰国生には最高の環境と条件 (8)

国際担当 小山 和智

2007年4月、新生「広尾学園」がいよいよスタートします。順心女子学園の帰国生に対する受け入れ体制や個別指導の素晴らしさが男子にも開放されるわけで、既に男子の合格者が多く出ています。ますます目が離せない学校です。

### ● 新生「広尾学園」、いよいよスタート！

帰国子女受け入れ実績のある伝統女子校の共学化ですから、今年の入学試験は、多くの皆様から関心をお寄せいただきました。

中学校は出願者741名、合格者数262名という数字で終了。2月19日現在では、合格者のうち既に入学手続きを済ませた受験生が151名(内 帰国生は15名)となっています。男女比においても「特進一貫コース」ではほぼ同数という理想的な割合になりました。また、従来の順心女子学園のよさを残すための「総合コース」(女子のみ)の方は、20名前後で編成できそうです。これから帰国・来日してくる児童・生徒の受け入れも、こちらが受け皿になります。

高等学校は出願者数388名、合格者数355名(内 帰国生24名)という結果になっています。この原稿を書いている段階では、都立高校の結果が出ていませんので入学者数はわかりませんが、新一年生は210名を超える人数を想定して準備を進めています。帰国生では、出願資格に「現地校での成績が上位15%以内」(特進)と書いてあることもあって、学業成績優秀な生徒だけが出願する傾向が強まりました。併願校も、学芸大大泉、都立国際、都立三田、都立竹早、ICU、早稲田本庄など国公私立の難関校との併願者がほとんどです。

広尾学園の帰国生総数も約90名となりますので、「インターナショナル・コース」の帰国生・外国人生徒と合わせれば、100名を突破する勢いです。英語特別授業(取り出し指導)は従来通り高レベルで行えますし、日本語特別指導(JSL)は“7時間目”に当たる「Personalized Learning Test (P.L.T.)プログラム」に位置づけられて、希望者には毎日指導が受けられる体制が整います。

### ● Personalized Learning Test(P.L.T.)プログラム

昨年4月からスタートした「個別課題学習」は、校内では「P.L.T.プログラム」と呼ばれています。朝10分、放課後40分の学習時間の中で実施してきたテストは、基礎を繰り返し学習する“さかのぼり型”のテストです。そしてまた、一人ひとりの学習進度に対応したテストでもあります。「学習指令センター」に生徒から寄せられた声の中で、主なものは次のような点でした。

- (1) 知らず知らずのうちに、学習習慣が身についていた。
- (2) 覚えることは大変だけど、地道に基本を勉強することの大切さがわかった。
- (3) チューターへの質問を通じて、自分なりの問題解決方法・勉強方法を把握できた気がした。

この学習を実際に経験した生徒は、他にもいくつもの学習効果に気づかされたことでしょう。

改善すべき課題も見えてきました。「P.L.T.プログラム」は、自学自習形式の学習です。最初はこの意味を充分理解してもらえずに、時間をうまく使えない生徒も少なからずありました。そこで「学習指令センター」では、テスト自己採点後の残った時間をどうするか、少し提案をしてみたそうです。「自分なりに色々工夫して、時間を有効に活用して下さい。復習用のノートを作って、できなかった問題をやり直してみるのも一つの方法です。」等々。

2学期になると、生徒に変化が見られるようになってきました。答案用紙の余白に模範解答の解説に書かれた文章例・解答例をきちんと書いて復習をしている生徒や、ノートを持ってくる生徒も多くなりました。誤りを訂正して答えをただ書き写すだけではなく、工夫しだいで時間の生かし方も学習成果も大いに違ってきます。このように、周りの人達の学習方法も参考にし、切磋琢磨しながら自律の精神を養うことができるのも、この学習法の優れた一面です。